

文教厚生常任委員会行政視察研修報告書

文教厚生常任委員会では、令和5年5月22日(月)～24日(水)の日程で石川県野々市市・白山市・羽咋市を視察して参りました。参加者は笹沼 昭司委員長、鈴木 恒充副委員長、加藤 誠一委員、福田 克之委員、石岡 祐二委員、矢澤 功委員、執行部職員2名、及び事務局職員1名です。

2日目に最初の視察先、野々市市では「子育て支援事業」について、続いて白山市を訪問し「共生のまちづくり条例」について、3日目は羽咋市を訪問し、「自然栽培を活用したまちおこしの取り組み、JAはくいとの連携」についてそれぞれ研修しました。

石川県野々市市

○「子育て支援事業」について

5月23日の午前中に、石川県野々市市を訪問いたしました。

野々市市は、石川県のほぼ中央にある、加賀平野の東部に位置し、人口53,954人、面積13.56k㎡で、県内で最もコンパクトなまちであります。市域の北部から東部にかけて県庁所在地である金沢市に、西部から南部にかけては白山市に隣接し、肥沃な土地と良質な地下水に恵まれた手取川扇状地上にあり、山や大きな河川がなく、海に面していない平坦な土地であることが特徴であります。土地区画整理事業により商業施設が集約され利便性が高く、若いファミリー世代を中心に人口が増加し、市民の平均年齢が県内一若い都市であります。

野々市市が特に進んでいると思われる点として、1歳児保育士または保育教諭定数改善事業について、保育士1人あたり保育児童数が国の基準が6人のところ4人、3歳児では20人のところ15人と手厚くなっています。また、民間の保育園での加配については、補助事業で対応しております。

放課後児童クラブは市立のものではなく、民間28施設、保護者設置施設1か所で実施されています。

日など保育人数が少ない場合は、市長の定める安全確保方策に従い合同保育を実施しております。

森林環境譲与税を使い「木とふれあい、木に学ぶ、木と生きる」という木育の取り組みが、ののいちっ子木育事業として子育て支援担当課で実施されており、障がい者福祉サービス会社で作られ、一升枡程度の立方体の木箱に三角柱、四角柱、円柱などの小さな積み木になるような、また木の穴を通すセットが新生児誕生祝品として配られています。

ひとり親家庭等学習支援事業やひとり親家庭等生活向上事業があり、ひとり親家庭の子どもの学習支援、生活習慣の習得などが大学生を使い土曜日や夏休み、冬休みに昼食付で委託により実施しております。

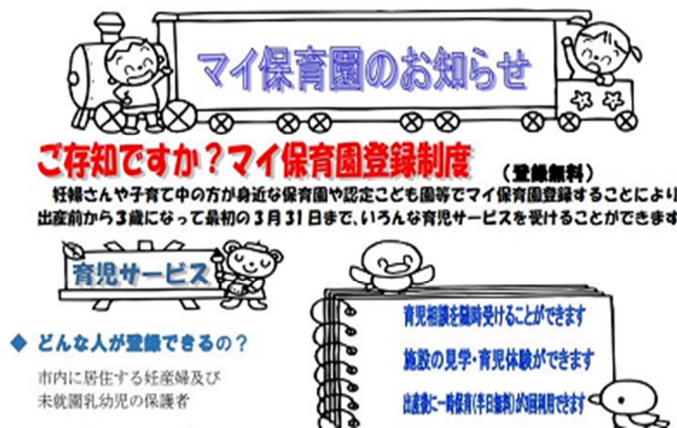
マイ保育園登録制度は石川県が積極的に推進し、出産前から3歳になる年の3月31まで、育児体験、育児相談やいろいろな育児サービスを利用者が選んだ保育園等で受けられる制度で、有料の一時預かりとは別に、入園前に無料で3回まで一時保育サービスも受けられるようになっています。昨年度は500人の登録があり、また子育てコーディネーター

がいます。

今回の視察を通じて、野々市市の子育て支援事業に対する積極的な取り組みと、意識の高さを感じることが出来ました。



・積み木セット (ののいちっ子木育事業)



・マイ保育園登録制度



・研修風景



・議場視察

石川県白山市

○「共生のまちづくり条例」について

5月23日の午後は、白山市を訪問いたしました。

白山市は、石川県の南部に位置する市であり、人口112,639人、面積754.93k㎡で、1市2町5村が合併して発足いたしました。西は日本海に面し、南は白山国立公園区域で、南北に長く、面積は県内最大の市で、金沢市にもアクセスが良く、通勤・通学の3割が金沢市に通っています。また、多くの工業団地が整備され、県内首位級の工業地区でもあります。

白山市では、平成29年10月に「共生のまちづくり条例」を策定し、障がいや理由とする差別の解消についての基本理念を定め、「共生のまち白山市」を実現することを目指しています。白山市での取組は、医療、教育、警察、介護、行政や障害者の家族会も含めた、「共生のまちづくり推進協議会」を設置し、地域との連携を図っております。また、市役所では職員対応要領、対応マニュアルの作成、差別解消のための職員研修などを実施しております。さらに、学識経験者や障害者協会・福祉施設の代表からなる「障害者差別

解消のまちづくり支援協議会」を設置し、共生のまちづくり条例に関する取り組みの報告、評価、差別事例の検討を実施しております。啓発活動も講演会や、駅前あおぞら手話講座、共生フェスタはくさん、障害者の拠点づくりなど様々な啓発活動に取り組んでおります。

インクルーシブ教育については、社会福祉協議会による福祉共育啓発講座を市内の学校・児童クラブ、地域で行うほか、「ノーマネットはくさん」ので障がいのある子の育ちの支援と共に育つ環境づくりについての協議も行っています。また、医療的ケア児の対応としてケアの必要な児童生徒が通学する公立の小中学校に、看護師を派遣し医療的ケアをし、児童生徒の介護を行う者を支援する「小中学校医療的ケア介護者支援事業」を実施しております。

白山市でのこれからの展開は、共生フェスタをはじめ、出前講座や各種講演会などにより、市民や企業へ共生のまち白山の啓発活動に取り組んでいきます。

課題としては、ヘルパーや相談支援相談員の人員不足やの解消に向け、ガイドヘルパー等の講座の開催や、福祉の仕事魅力発信の動画の作成を進めるほか、相談支援専門員初任研修受講や新規事務所の立ち上げ、兼任相談員の専従化を働きかけて果敢に取り組んでいくこと。また、医療的ケア対応の通所事業所の不足の解消に向け生活介護事業所への看護師配置の働きかけを行うほか、重度障害対応のグループホームなどの資源不足には、通常の報酬に加え、市独自の補助金により支援体制を維持しています。

今回の視察を通じて、白山市の共生のまちづくりに対する積極的な取り組みと意識の高さを感じることが出来ました。



・研修風景



・議場視察

石川県羽咋市

○「自然栽培を活用したまちおこしの取り組み、JA はくいとの連携」について

5月24日は、羽咋市を訪問いたしました。

羽咋市は、石川県能登半島のほぼ中央に位置し、人口20,004人（R5.4.1）、面積81.85k㎡で、県内面積の15位であります。中央部に邑知潟と邑知平野があり、東側は富山県氷見市と接し、西側は日本海に面し砂浜の海岸線が広がっております。

羽咋市を含む能登地域（4市5町）は農林水産業とそれに関連した人々の営みすべてが

平成 23 年に「世界農業遺産」されるなど、社会や環境に適応しながら何世代にもわたり形づくられて来た農業地を有しております。

特徴的な取り組みとして、農薬、化学肥料、有機肥料、除草剤を使用せず、土壌を自然の状態に整え自然の力で作物を栽培する農法「自然栽培」を市と JA はくいとの連携のもと、「はくい式自然栽培」のブランドとして確立しております。

はくい式自然栽培は伝統的な農業とそれに関わって育まれた文化、景観、生物多様性に富んだ、世界的に重要な地域を次世代へ継承することも担っております。

羽咋市として、持続できる営農、新規就農者が安心して就農できる環境づくりの支援として各種助成制度を設けサポートを図っている。また、農作物の消費拡大に向けた取り組みとしては加工食品の開発、地元道の駅での販売、ふるさと納税の返礼品、学校等給食への提供などを強化しております。

課題として、学校給食における自然栽培農産物の提供は、需要と供給のバランスが難しく、米・野菜共に年数回程度となっていることでありました。



・研修風景



・農場視察



・神子の里（神子原農産物直売所）

※羽咋市における議場視察は、議場改修中のため視察できませんでした。